

リズムが第一因子に予想されたと報告されている。但し、WISC 動作性の下位検査問題の性質として必しもリズム其の他の運動感覚を純粹にとり出していない点、例えば体力テストなどで個々の運動感覚との相関をみる方がより適切なのではあるまいか。

次にクラス(B)に於いてはまづクラス(A)より全体として評価点が劣るがWISCに於ける全検査QはクラスAのそれに劣っていないし逆に優れたケースも認められる。例えばM・T(♂)は動作性Iが最も高いにかかわらず音楽テストは中位である点などは注目される。なおクラス(B)に於けるWIのC全検査Qとの相関は^{0.574}言語性Qとは^{0.981}で極めて高く、反対に動作性Iとは、^{0.172}で、この現象はクラス(A)と逆である。

第三に、クラス(C)では両テスト共に(A)(B)より低いことが目立つ。即ち音楽テストは、中より下位への移行が目立ち(A)(B)に比較して問題6の「鑑賞・表現」が劣っている。又、WISC全検査Iとの相関は^{0.212}言語性Qとは^{0.355}動作性Qとは^{0.336}となっており(B)(C)に比較して極めて低く更に逆相関を示している点などについては、両テスト共に低い評価点を検出しているにも拘らず、相関係数算出に於ける数的処理の問題及び対象人員の不足などと共に対象群の選出などに再検討を加える必要があるものと思われる。

以上の点に加えて次回は、各サブテスト間の相関、因子分析などを行いこのテストの限界を求めてゆきたいと思う。

幼児用絵画統覚検査(R. C. A. T.) 作成の試みについて

芦屋市児童教育研究所 山本眞市

頌栄短期大学 西本脩

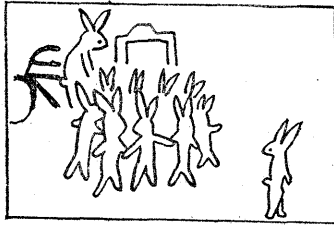
西宮市上甲子園小学校 吉井忠生

目的

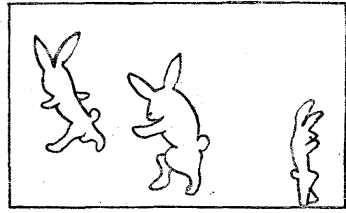
幼児の保育に直接あたっていられる先生方は、いろいろ問題の子供に出会われることと思う。そのとき何とかしてよい子に導いてやろうと思われても、ただ愛情だけではどうにもならない。その原因や問題点を或程度客観的につかみたいと思われるでしょう。このような目的に達するように考案されたものがこのテストである。即ち幼児に絵を見せてその絵を見ながらお話をつくらせる、そしてそのお話を分析してその子供のもっている欲求や圧力を知らうとするものである。

この種のテストとして Bellak の R. C. A. T. もあるのであるが本邦児童の生活習慣に適合しないために場面として不適なものがある。そこで本邦児童に最も親近性のある兎の漫画を材料として場面を構成した R. C. A. T. (Rabbit Children's Apperception Test) の作成を試みたのである。

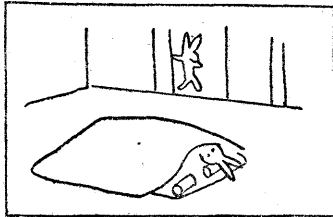
手続 (A) テスト作成上の留意点



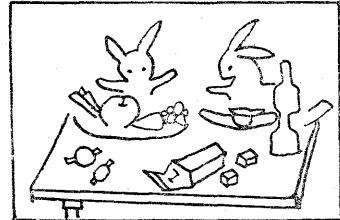
図版3
(紙芝居)



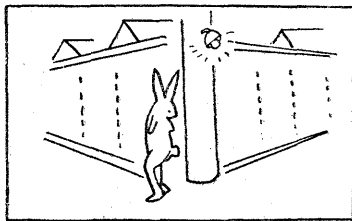
練習用図版
(かくれんぼ)



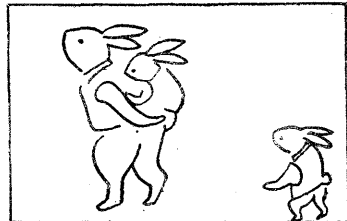
図版5
(ねどこ)



図版1
(おやつ)



図版11
(夜)



図版2
(おんぶ)

一、各場面の登場人物を全部兎にし
た。そのわけは兎は古くより日本の
子供にとって最も親しみのある動物
であり都会、田舎にかかわらず子供
たちにひとしく愛されているもので
あるからである。

Bellak の C.A.T. ではライオン
とか虎とか、カンガルーなどが用い
られているが、その場合はそのもの
自体のもつ性格に影響されてその投
影がゆがめられるのではないだろう
かと思われる。そこでどのように
も解釈できる(性的にも年令的に
も)と思われる兎だけにした。

二、場面の構成については先づ幼児
々童の日常生活における問題を予想
し、それを課題解決場面として構成
した。これを用いて、二年前より神
戸、芦屋、西宮市の幼稚園児に予備
実験をなし幼児児童の心理に合し最
もと思われる一五枚を選んだ。(こ
の外に練習用の図版がある。)この図
版を全部示せばよいのであるが紙数
も限られているので、その一部を次

(B) 各図版の内容とねらい(欲求と圧力)

圧 力			図 版 (仮 称)	欲 求		
c	b	a		a	b	c
不疾罪 安患	災不欠 害幸乏	養獲確攻拒 育得得撃否		遊欲確獲認 び食保得知	愛自己親伝 情願示擊助和達	圧力排除
		××	練. かくれんぼ	×		
	×	×	1. お や つ	××		
		×	2. お ん ぶ		×	
	×	×	3. 紙 芝 居		×	×
		×	4. おくりもの	×		
××	××		5. ね ど こ		××	
		×	6. 相 撲	×		×
×			7. 孤 独			
×		×	8. 野 球	×	×	×
			9. お 話	×		
×		××	10. 食 事	×	×	
×		×	11. 夜		×	×
			12. 遊 び	×	×	×
	××	×	13. お 店	×	×	
			14. 電 話		×	×
		××	15. 泣 く	×	×	

〔註〕 ×印は各図版における予想される欲求や圧力を示す

圧力 { a. 人的圧力
 b. 環境的圧力
 c. 内的圧力 }
 欲求 { a. 外的事象への欲求
 b. 対人的欲求
 c. 圧力排除の欲求 }

に掲げておくことにする。
 三、選択し決定された図版を各要素別に分析
 してみると次のようになる。

(a) 環境構成の面から

家庭を場面にとつたもの

集団の遊び(幼稚園などの)

近隣社会を場面にとつたもの

個人的な場面

(b) 対人関係から

父母に対するもの

目上の人(教師や大人など)に対するもの

同胞(兄弟姉妹)に対するもの

友人に対するもの

孤独のもの

尚これらの各図版を欲求や圧力の面から表
 示すると次の表ようになる。

(尚これらの図版や実施手引検査用紙などはこのたび
 次のところから出版されましたのでつけ加えておき
 ます。)

神戸市須磨区平田町一の六六

教育文化社